平成２７年度　第４回川崎市教育改革推進会議（摘録）

日　時　：平成２８年３月２３日（水）１８：００～２０：００
場　所　：教育文化会館３階　第６会議室
出席者　：小松委員、髙木委員、田中委員、大下委員、金崎委員、金委員、丸山氏（山崎委員代理）、堀米委員、星氏（門倉委員代理）、渡辺臨時委員
（事務局）渡邊教育長、三橋総務部長、佐藤教育改革推進担当部長、丹野教育環境整備推進室長、山田職員部長、小田嶋学校教育部長、望月中学校給食推進室長、小椋生涯学習部長、芹澤総合教育センター所長、辰口教育改革推進担当課長、古内企画課長ほか
欠席者　：杉村委員、齊藤委員、中村委員、阿部委員
傍聴者　：なし
司　会　：古内企画課長

［配布資料］
資料１：川崎市版キャリア教育　キャリア在り方生き方教育
資料２：平成２７年度キャリア在り方生き方教育推進協力校 実践報告書
資料３：平成２７年度 木月小学校キャリア在り方生き方教育 全体計画
資料４：木月小キャリア在り方生き方教育・各学年カリキュラム ピックアップ表
資料５：第４学年　総合的な学習の時間指導案
資料６：第５学年２組　総合的な学習の時間指導案
資料７：平成２８年度教育費予算概要・重点施策
資料８　平成２７年度第３回川崎市教育改革推進会議の摘録
参考資料１　川崎市教育改革推進会議運営要綱
参考資料２　川崎市教育改革推進会議委員名簿

〔次第〕
１　開会
２　教育委員会あいさつ（教育長）
３　議題（課題への対応）
　キャリア在り方生き方教育について　　・・・資料１～６
４　報告
　平成２８年度における教育委員会の取組について　・・・資料７

議題（課題への対応）

キャリア在り方生き方教育について

（教育改革推進担当課長、川崎市立木月小学校教員説明）

委員　　・資料にある「基礎的・汎用的能力」とは何か。特に「基礎的能力」とは。
事務局　・社会の中で生きていくための力であり、様々な人と関わって生きるための土台となる力と考えている。
委員　　・学校教育において「基礎」という言葉は学習の指導内容として位置づけているため、混

乱を引き起こさないように気をつけて使用する必要がある。

事務局　・「基礎的・汎用的能力」は、文部科学省によるキャリア教育の手引きから引用している言葉であり、具体的な４つの能力についても、国の手引きに基づいて整理したものである。

委員　・木月小学校以外の推進協力校での事例は、どのようなものがあるか。

事務局　・例えば、行事や様々な活動の際に、どのような力を身に付けたか、どう成長したか等の振り返りを行うための「ＤＣＡカード」というものを作成、活用した学校や、子どもたちに配布した「キャリア在り方生き方ノート」の授業の中での活用方法について検討した学校がある。

委員　・先日開催された研究推進校の実践報告会の中で、本校の卒業生の大半が通う中学校の生徒は、地域への興味・関心などの意識が低いという調査結果があると知り、非常に驚いた。小学校では地域とのつながりを活用した様々な体験活動を行っているにもかかわらず、なぜ中学校ではこのような調査結果が出るのか、またどのように改善すればよいのか、小中連携教育やキャリア在り方生き方教育の視点を含めながら考えていきたい。

委員　・キャリア在り方生き方教育について保護者にあまり認知されていないように感じている。学校だけで活動を進めるのではなく、保護者や地域も巻き込んでキャリア在り方生き方教育を進めていくと、より良い取組になるのではないか。

委員　・川崎では、地域教育会議や寺子屋事業など、地域が主体となった取組が進められてきている。社会教育分野との連携はどのように考えているのか。

事務局　・色々な部署との連携が必要であると考えている。今後の具体的な取組については、検討中である。

委員　・子どもたちにとって、学校の外で地域の大人と出会い、触れ合うことが良い刺激になるのではと考えている。行政内部の連携だけでなく、地域での子どもの活動とキャリア在り方生き方教育とをつなげて、子どもたちにより良い影響を与えられればと思う。

事務局　・まず、学校教育と地域とのつながりについては、現在でも職業体験の体験先の紹介など、色々な形で地域の団体に協力をしてもらっているところである。また、キャリア在り方生き方教育については、川崎市の教育の目指すものを保護者の方や地域の方一人ひとりに理解していただき、学校が大事にするものを共有し、協力していければと考えている。

委員　・先ほど話のあった二分の一成人式でも、保護者に協力してもらいながら進めていると思われる。ただ、保護者にとっては、これがキャリア在り方生き方教育の実践となっているのだという自覚がないのではないかと思う。

委員　・地域社会が子どもたちの成長にどう関わるかというのは非常に大切なことであり、キャリア在り方生き方教育の大きな軸の一つであると思う。地域としては、子どもたちには地域の一員であるという自覚を持ってほしいと思っているが、そのためには、地域が子どもたちにどう積極的に関わっていくかが重要である。

・資料の中に、「地域社会」や「地域コミュニティ」という言葉が出てきていない。実際には地域との関わりを活かして取組を進めているのだから、言葉として表現してもらえるとよい。

委員　・保護者の立場に立って考えてみると、キャリア在り方生き方ノートについて、どういうもので、どのような使われ方をするのかが分からず、不安である。また、絶えず持ち歩くということなので、子どもの正直な気持ちを書いてしまうと、それが誰かの目に触れていじめに繋がったりするのではないかと心配になる。折に触れて自分の成長を振り返ることは重要だと思うが、このノートの使い方等について、指導方法はもう整えられているのか。また、保護者に対してどのように周知を行うのか。

事務局　・キャリア在り方生き方ノートの使い方については、教科書的なものではない。また、担任教師・学校と家庭とが連携するための手立てとして、ノートを活用してもらえればと考えており、例えば、不安に思うようなことがノートに書かれていれば、教師が子どもに対して支援策を考えたり、家庭にアプローチしたりすることができる。その子どもを知る手がかりや、家庭と学校・教員とのつながりとして考えてほしい。宿題のような形で家庭に丸投げすることはないし、授業を通して必ずやらなければならないというものでもない。

・ノートは成長段階によって内容が異なっており、例えば、小学校低学年ではルールや決まりを守ることの重要性、中学校では自分自身の将来を考えてみるなど、子どもの発達段階に合わせた内容になっている。それぞれのノートは、どの段階でどのような子どもの特性があるか、またどのような力をつけてほしいかについて、保護者にも知ってもらえるような構成にしており、川崎のキャリア在り方生き方教育を知る一つの手立てとして保護者にも使ってもらえればと考えている。

委員　・現在でも、学校の授業時数のゆとりが少ない中で、今後は教育課程に新たな学習が含まれる見込みである。そのため、学校では教科だけのカリキュラムではなく、学校全体のカリキュラムを考えておくことが必要であると思う。単に教科書の授業時数をあてはめるのではなく、具体的な資質能力の育成のために、どう教育活動を進めていくかというカリキュラムマネジメントが大切である。

・総合学習型のキャリア教育を実施するにあたっては、活動が中心になりがちで、どのような能力を育成するかが曖昧になりがちである。しかし、木月小学校のキャリア教育のカリキュラムには、活動を通じて育成する能力として、国語の指導要領に基づいたものが明記されている。このようにキャリア在り方生き方教育を通じて教科横断型のカリキュラムを組むことができれば、少ない指導時数で何を育成するかが明確になるので、これからも、カリキュラムマネジメントをしっかり行っていってほしい。

委員　・色々な学校に赴任すると、地域によって子どもの実態がまったく異なっていることを感じる。それぞれの子どもの実態に合わせた教育をしっかりやっていかなければ、心に響く教育にならないのではないかと思う。

・学校では様々な課題を抱えた子どもたちがおり、進路指導等の際には、これから子どもが社会で生きていくなかで、どんなときも夢や希望を持って生きていくために、教育としてできることは何かということを改めて考えさせられている。中学校教育を通して、一人ひとりが社会で生きていくための力をつけていきたいと思っている。

委員　・現在の学校教育においては、地域の協力無くしては教育活動が進まないと感じており、現在行っている職場体験でも地域から協力をしてもらいながら進めており、職場体験の当日だけでなく長いスパンで関わってもらっている。また、地域の方を講師として招いて昔遊びや調理実習等の一日体験講座を開くなど、どの学校でも地域と関わりながら活動を行っている。

・木月小学校では、中学校と連携して取り組んでいることはあるか。

事務局　・具体的に授業の中で関わるということはあまりないが、中学校体験では卒業生が説明をしてくれたり、また本校で開催する「ふれあいフェスタ」では自主的に卒業生が来校し、小学生と交流をしてくれているところである。

事務局　・そもそも、キャリア在り方生き方教育は、新たな教育活動を始めることではなく、従来から実践している活動や教科学習を整理し、新たに価値付けて、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を系統的に育てていこうという取組である。先ほど委員からも

話があったが、子どもの実態は地域や学校によって異なるので、学校として改めて児童生徒の実態を捉えて、最も育てたい力を見据え、その力をどのようにつけていくかの全体計画を作り、それを実践するのがキャリア在り方生き方教育である。本格実施にあたっては、その部分について改めて教職員への周知徹底に努める。

・キャリア在り方生き方ノートについても、このノートを書くことがキャリア在り方生き方教育なのではなく、作文や色々なワークシートを含めてひとつにまとめることで、自分の成長や変化を振り返るためのポートフォリオとして、一生の財産になると良いと考えている。

委員　・事務局が受けている学校からの質問について、それらの質問が何を意味しているのか考えることが重要である。「新しいことがいっぱいあって大変」という意見は、現在、学校こそ学力をつける場所であるということで初等中等教育が重要になっているにもかかわらず、学力の育成以外の部分で教員が多忙になり、子どもが抱えている課題を見逃しているのではないか、という問題がある。

・先ほど委員から話のあった「基礎的・汎用的能力」について、キャリア教育に関する会議の中で、大学における企業への就職活動を視野に入れたために「汎用的」という言葉が使われるようになってしまった。本来は、これからの社会を生きる子どもたちのために、今までやってきた教え方をきちんと見直して、小学校・中学校段階で子どもたちの社会性を育てていこうというものである。

・また、子どもにとっての学習は、教科ごとに区切られるものではなく、子どもの中で統合されていくものである。発表のあった地域の川での学習も、そこでの活動が理科や国語などの様々な学びを集約してカリキュラムが組まれている。このような活動を通じて、教科間の学びをつなげたり、また、過去の授業と未来の授業をつなげたりすることで、断片的でない、統合された知識をつけるための支援をすることが重要である。子どもたちに振り返りをさせ、過去の経験を未来につなげる楽しさを知るという授業の組み立て方をすることが、キャリア教育の本来の姿ではないかと考えている。

・子どもが書く感想文を読むと、ほとんどの子どもが未来に目を向けている。その感想文に先生が反応し、気持ちを後押しすることで、子どもの気持ちがより前向きになることもある。それらの感想文を子どもの経験の蓄積として、ポートフォリオ的に積み重ねていくとよいのではないかと思っている。このキャリア在り方生き方ノートを併せて使うのであれば、保護者の心配を払拭するために、保護者会などでその効果や意味合いを度々説明する必要がある。

事務局　・キャリア在り方生き方教育の推進協力校では、それぞれの職員室が良い雰囲気になっていることが多い。キャリア在り方生き方教育を通じて、学校が一丸となって子どもの成長のために力を合わせ、職員全体で子どもの成長を見守っていくという雰囲気ができているのではないかと思っている。事務局としては、そういった学校の組織力強化を支援していきたい。

・４月からの本格実施にあたっては、春に行う学校説明会などで、キャリア在り方生き方教育を通して目指す子どもの育ちについて、保護者に対してしっかりと説明をして、協力をお願いしていきたい。また、学校現場や地域からもお話を伺いながら進めていきたいと考えている。

報告

平成28年度における教育委員会の取組について

（企画課長説明）

意見なし